

(19) **日本国特許庁(JP)**

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

實用新案登録第3148897号
(U3148897)

(45) 発行日 **平成21年3月5日(2009.3.5)**

(24) 登録日 平成21年2月12日 (2009.2.12)

(51) Int. Cl.	F I
A 4 7 J 43/24 (2006.01)	A 4 7 J 43/24
B 0 2 B 1/04 (2006.01)	B 0 2 B 1/04 1 0 1

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8894 (U2008-8894)
(22) 出願日 平成20年12月18日 (2008.12.18)

(73) 実用新案権者 500163056
株式会社ジョウヨウ
茨城県電ヶ崎市佐沼町 150番地

(74) 代理人 100093816
弁理士 中川 邦雄

(72) 考案者 岡見 忠義
茨城県龍ヶ崎市佐沼町 150番地 株式会
社ジョウヨウ内

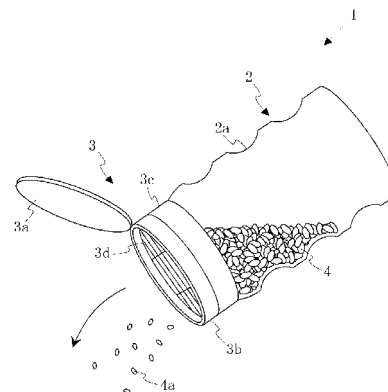
(54) 【考案の名称】 検米可能な洗米器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】米の粒径を揃えると共に米の量に適した水の量を計量することができる検米可能な洗米器を提供する。

【解決手段】上面に米と水が出入する開口部を有し側面に複数の湾曲部を設けた略円筒形の容器と、前記容器の開口部の外周に沿って螺合する接続部および前記接続部の上に回動可能に取り付けた環状の開閉部および前記開閉部の上に回動可能に取り付けた円盤状の蓋部からなる前記容器を塞ぐキャップとからなり、前記キャップの開閉部に米の粒径を揃えるための格子状のフィルタを設けることを特徴とする。

【選択図】 図9



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上面に米と水が出入する開口部を有し側面に複数の湾曲部を設けた略円筒形の容器と、前記容器の開口部の外周に沿って螺合する接続部および前記接続部の上に回動可能に取り付けた環状の開閉部および前記開閉部の上に回動可能に取り付けた円盤状の蓋部からなる前記容器を塞ぐキャップとからなり、前記キャップの開閉部に米の粒径を揃えるための格子状のフィルタを設けることを特徴とする検米可能な洗米器。

【請求項 2】

検米した米を計量するための米用目盛りと、検米後に洗米した米をザルに移した上で米の量に対する水の量を計量するための水用目盛りを、容器の側面に付したことを特徴とする請求項 1 に記載の検米可能な洗米器。

10

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、米の粒径を揃えると共に米の量に適した水の量を計量することができる検米可能な洗米器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来の洗米は、釜などに米と水を入れて手で米を研いだ後、米が流れ出ないように手で押さえながら水を捨てる方法が一般的であり、炊飯する時は釜に付いた目印を基準に水を入れていた。

20

【0003】

特許文献 1 に記載されているように、円筒形筒本体の小開口側内部に網状で米が流れ出ないくらいの穴が開いたフィルターを設けた米とぎ器の発明も公開されている。

【特許文献 1】特開 2002-272625 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献 1 に記載の発明は、フィルターで水のみを排出しており、米は全て残るため、米の大きさが不揃いなままであると、炊き上がりにムラが生じる可能性がある。

30

【0005】

そこで、本考案は、米の粒径を揃えると共に米の量に適した水の量を計量することができる検米可能な洗米器を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案は、上記の課題を解決するために、上面に米と水が出入する開口部を有し側面に複数の湾曲部を設けた略円筒形の容器と、前記容器の開口部の外周に沿って螺合する接続部および前記接続部の上に回動可能に取り付けた環状の開閉部および前記開閉部の上に回動可能に取り付けた円盤状の蓋部からなる前記容器を塞ぐキャップとからなり、前記キャップの開閉部に米の粒径を揃えるための格子状のフィルタを設けることを特徴とする検米可能な洗米器の構成とした。

40

【考案の効果】

【0007】

本考案は、キャップに格子状のフィルタを設けることにより、米の粒径を揃えることができる。また、容器に米用目盛りと水用目盛りを付すことにより、米の量に適した水の量を計量することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0008】

本考案である検米可能な洗米器 1 は、上面に米 4 と水 5 a が出入する開口部 2 d を有し

50

側面に複数の湾曲部 2 a を設けた略円筒形の容器 2 と、容器 2 の開口部 2 d の外周に沿って螺合する接続部 3 c および接続部 3 c の上に回転可能に取り付けた環状の開閉部 3 b および開閉部 3 b の上に回転可能に取り付けた円盤状の蓋部 3 a からなる容器 2 を塞ぐキャップ 3 とからなり、キャップ 3 の開閉部 3 b に米 4 の粒径を揃えるための格子状のフィルタ 3 d を設けることを特徴とする。

【0009】

また、検米可能な洗米器 1 は、検米した米 4 を計量するための米用目盛り 2 b と、検米後に洗米した米 4 をザル 6 に移した上で米 4 の量に対する水 5 a の量を計量するための水用目盛り 2 c を、容器 2 の側面に付したことを特徴とする。

【実施例 1】

【0010】

図 1 は、本考案である検米可能な洗米器の斜視図であり、また、図 2 は、本考案である検米可能な洗米器の正面図である。検米可能な洗米器 1 は、容器 2 とキャップ 3 とからなり、キャップ 3 で容器 2 に栓をする。

【0011】

容器 2 は、ペットボトルのような樹脂等を略円筒形に成形したものであり、上面には、米 4 と水 5、5 a を出入りさせるための開口部 2 d が広めに空いており、側面には、内側に滑らかに凹む湾曲部 2 a が複数設けられる。

【0012】

また、容器 2 の側面には、米 4 の量を量るための米用目盛り 2 b と、水 5 a の量を量るための水用目盛り 2 c が付けられる。容器 2 は透明であり、中に収納した物を透かして計量することができる。

【0013】

米用目盛り 2 b については、1 合、1.5 合、2 合、・・・となる位置にラインを引き、水用目盛り 2 c については、米 4 の量に対して 120 % となる位置と調整用の目盛りが（例えば 0.5 mm ごとに）引かれる。

【0014】

水 5 a の量は米 4 に対して約 120 % が適量であるが、あくまで基準であり、時期や米 4 の状態により、適切な水 5 a の量は変動するため、前回の炊き上がり等を参考にして調整用の目盛りにより加減する。

【0015】

キャップ 3 は、樹脂等を円筒形に成形したものであり、上から蓋部 3 a、開閉部 3 b、接続部 3 c を連結した構造である。尚、開閉部 3 b の内部には格子状のフィルタ 3 d が設けられる。

【0016】

図 3 は、本考案である検米可能な洗米器の容器の断面図である。容器 2 の内壁面及び底面には湾曲部 2 a により凹凸が形成され、また、開口部 2 d の外周面には雄ネジ 2 e が形成される。

【0017】

容器 2 内に米 4 を入れて容器 2 を振った際に、湾曲部 2 a による内壁面の盛り上がりにより米 4 が当たることで洗米効果を向上させることができる。また、滑らかに湾曲させることで、米 4 を排出する際につつきを減らす効果が期待できる。

【0018】

開口部 2 d は、米 4 を排出しやすいように広くする。尚、キャップ 3 を取り付けた際にキャップ 3 が容器 2 の外径よりはみ出ない程度にする。雄ネジ 2 e は開口部 2 d に螺旋状の突起又は溝を付けることで設ける。

【0019】

容器 2 が湾曲部 2 a のない円筒形であれば、米用又は水用の目盛りは等間隔に付すことができるが、湾曲部 2 a により同じ間隔ごとの容積が変動する場合には、ある一定区間における湾曲部 2 a の個数や大きさを揃えるなどして対処する。

10

20

30

40

50

【0020】

図4は、本考案である検米可能な洗米器のキャップの断面図である。蓋部3aは円盤状であり、キャップ3の上面を塞ぐ。開閉部3bは環状であり、フィルタ3dにより条件付きで物を通過させる。接続部3cは環状であり、内周面に雌ネジ3eが形成される。

【0021】

容器2の開口部2dに形成した雄ネジ2eと、キャップ3の接続部3cに形成した雌ネジ3eを螺合させることで、キャップ3の蓋部3aにより容器2の開口部2dを塞ぐことができる。

【0022】

尚、蓋部3aは薄い円板で良いが、開閉部3bの高さはフィルタ3dを取り付ける必要があるため約5mmとし、接続部3cの高さは容器2の開口部2dにねじ込むため約15～20mmとする。

10

【0023】

図5は、本考案である検米可能な洗米器のキャップの蓋部を開いた状態の断面図であり、また、図6は、本考案である検米可能な洗米器のキャップの蓋部を開いた状態の平面図である。

【0024】

蓋部3aと開閉部3bとは円形状の一箇所を連結し、連結箇所を支点として蓋部3aを回転させることで開閉することができる。蓋部3aを開いた状態では、開閉部3bのフィルタ3dを介して物の出入れが可能となる。

20

【0025】

フィルタ3dは縦に複数の棧を均等な幅で配置し、横に1本又は2本（それ以上も可）の棧を配置することにより、物の通過を制限する。水5、5aは無条件で通過するが、米4は粒径の小さいものだけ通過する。

【0026】

米4の粒径は、品種等にも依るが、約1.7～2.0mmのものが好ましく、縦棧の幅が1.7mmのフィルタ3d、1.8mmのフィルタ3d、1.9mmのフィルタ3dなどを用いる。

【0027】

図7は、本考案である検米可能な洗米器のキャップの開閉部を開いた状態の断面図である。開閉部3bと接続部3cについても円形状の一箇所を連結し、連結箇所を支点として開閉部3bを回転させることで開閉することができる。

30

【0028】

開閉部3bを開くとフィルタ3dが除外され、容器2の開口部2dが完全に空くので、米4又は水5、5aを容器2内に入れたり、容器2内のものを全部出したりする場合に、キャップ3を外すことなく行うことができる。

【0029】

図8は、本考案である検米可能な洗米器への米の投入を示す図であり、また、図9は、本考案である検米可能な洗米器による検米を示す図である。まず、米4の粒径を揃える検米を行う。

40

【0030】

キャップ3の開閉部3bを開き、開口部2dから容器2内に米4を投入する。尚、等級の低い米4などの場合、粒径が基準に満たない小さなものや細かい不純物などの不要物4aが混入している可能性がある。

【0031】

キャップ3の開閉部3bを閉じて蓋部3aを開き、開口部2dをフィルタ3dで覆った状態で、容器2を下側に向けて振ることで、容器2からフィルタ3dを介して不要物4aのみを排出し、容器2内に粒径の揃った米4のみ残すことができる。

【0032】

図10は、本考案である検米可能な洗米器による米の計量を示す図である。次に、容器

50

2の向きを戻して容器2内の米4を平らにならし、米4の上面の高さが米用目盛り2bのどこに位置するか確認する。

【0033】

予め炊く米4の量を指定していた場合は、指定量よりも多めに米4を容器2に入れて検米し、米用目盛り2bで確認しながら、指定した米4の量になるまで容器2から出していけば良い。

【0034】

尚、洗米後に米4を計量すると、米4が水5を吸って分量が増加するので、洗米前に計量しておく。即ち、洗米前の米4の量とその米4の量に対する適切な水5aの量を把握しておくことが望ましい。

10

【0035】

図11は、本考案である検米可能な洗米器への洗米用の水の投入を示す図であり、また、図12は、本考案である検米可能な洗米器による洗米を示す図である。次に、容器2に水5を入れて米4を洗う。

【0036】

キャップ3の蓋部3a又は開閉部3bを開けて、適当な量の水5を投入する。尚、水5の量は、単に米4を洗うだけであり、後で捨てることとなるため、米4全体が浸る以上の量であれば良い。

【0037】

キャップ3の蓋部3a及び開閉部3bを閉じて、容器2内を密閉した状態で、容器2を上下前後左右に振って、容器2の湾曲部2aへの衝突や米4同士の摩擦なども利用して、米4の表面から汚れを落とす。

20

【0038】

図13は、本考案である検米可能な洗米器からの排水を示す図であり、また、図14は、本考案である検米可能な洗米器からの米の移替えを示す図である。次に、洗米後の米4をザル6等に移す。

【0039】

キャップ3の蓋部3aを開けて、フィルタ3dにより米4が出ない状態にしておき、洗米後の水5のみを排出する。洗米を複数回行う場合は、きれいな水5を投入して容器2を振って汚れた水5を排出することを繰り返す。

30

【0040】

洗米後、キャップ3の開閉部3bを開けて、容器2内の米4をザル6に移す。ザル6の上で約10分間余計な水5を落とすことにより、炊飯した際にシャッキリとした美味しい米4が炊き上がる。

【0041】

図15は、本考案である検米可能な洗米器への炊飯用の水の投入を示す図であり、また、図16は、本考案である検米可能な洗米器による水の計量を示す図である。次に、容器2を用いて、水5aを計量する。

【0042】

空いた容器2に、水面の高さを水用目盛り2cで確認しながら、米4の量に対して適量となる位置まで炊飯用の水5aを投入する。尚、基準の位置から増やしたり又は減らしたり微調整すると良い。

40

【0043】

一等米のように、米4が揃っている場合には、米4の約120%の量の水5aを入れることで美味しい米4が炊き上がる。即ち、米4の状態や時期的な条件を把握した上で、120%のラインから水5aの量を調整する。

【0044】

例えば、古米の場合は、新米に比べて水分が少ないので、水5aの量を多めにしたり、梅雨など湿度の多い季節には米4の水分が増えるので、水5aの量を少なめにしたりといった加減を行う。

50

【0045】

図17は、本考案である検米可能な洗米器からの水の移替えを示す図である。最後に、ザル6で水5を切った米4を炊飯用の釜7の中に入れ、さらに容器2から適量の水5aも釜7に入れる。

【0046】

検米可能な洗米器1を用いることにより、簡単に米4と適量の水5aを準備することができ、さらに、この手順で準備した米4を炊飯することにより、とても美味しい米4を常に炊きあげることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0047】

10

【図1】本考案である検米可能な洗米器の斜視図である。

【図2】本考案である検米可能な洗米器の正面図である。

【図3】本考案である検米可能な洗米器の容器の断面図である。

【図4】本考案である検米可能な洗米器のキャップの断面図である。

【図5】本考案である検米可能な洗米器のキャップの蓋部を開いた状態の断面図である。

【図6】本考案である検米可能な洗米器のキャップの蓋部を開いた状態の平面図である。

【図7】本考案である検米可能な洗米器のキャップの開閉部を開いた状態の断面図である。

。

【図8】本考案である検米可能な洗米器への米の投入を示す図である。

【図9】本考案である検米可能な洗米器による検米を示す図である。

20

【図10】本考案である検米可能な洗米器による米の計量を示す図である。

【図11】本考案である検米可能な洗米器への洗米用の水の投入を示す図である。

【図12】本考案である検米可能な洗米器による洗米を示す図である。

【図13】本考案である検米可能な洗米器からの排水を示す図である。

【図14】本考案である検米可能な洗米器からの米の移替えを示す図である。

【図15】本考案である検米可能な洗米器への炊飯用の水の投入を示す図である。

【図16】本考案である検米可能な洗米器による水の計量を示す図である。

【図17】本考案である検米可能な洗米器からの水の移替えを示す図である。

【符号の説明】

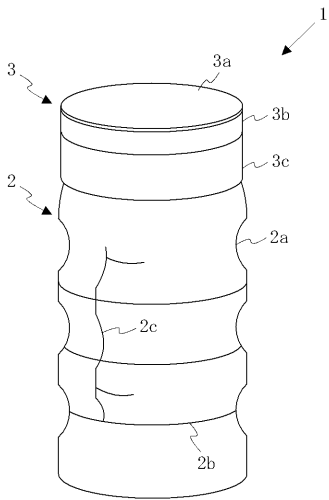
【0048】

30

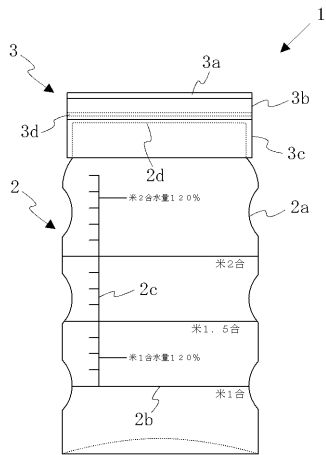
- 1 検米可能な洗米器
- 2 容器
- 2 a 湾曲部
- 2 b 米用目盛り
- 2 c 水用目盛り
- 2 d 開口部
- 2 e 雄ネジ
- 3 キャップ
- 3 a 蓋部
- 3 b 開閉部
- 3 c 接続部
- 3 d フィルタ
- 3 e 雌ネジ
- 4 米
- 4 a 不要物
- 5 水
- 5 a 水
- 6 ザル
- 7 釜

40

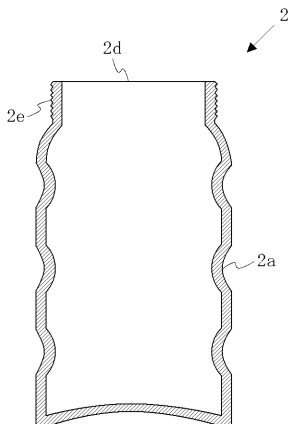
【図 1】



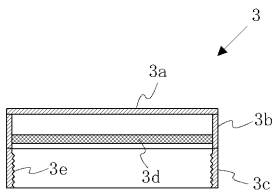
【図 2】



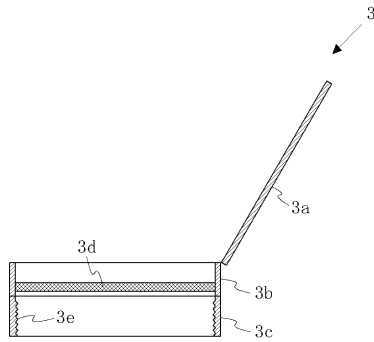
【図 3】



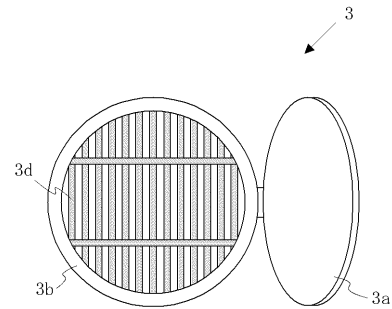
【図 4】



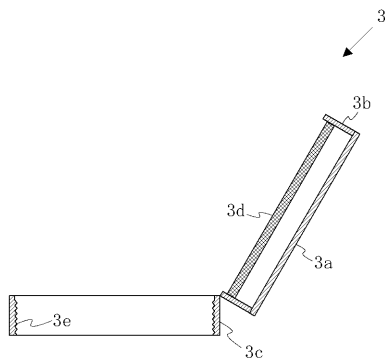
【図 5】



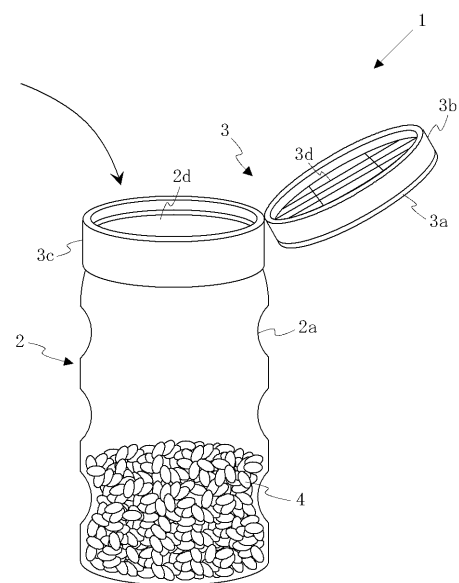
【図 6】



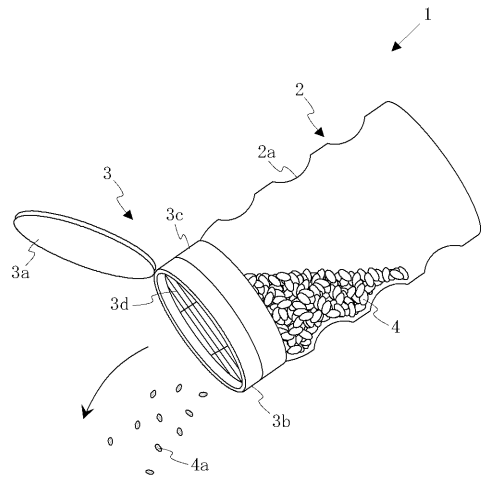
【図 7】



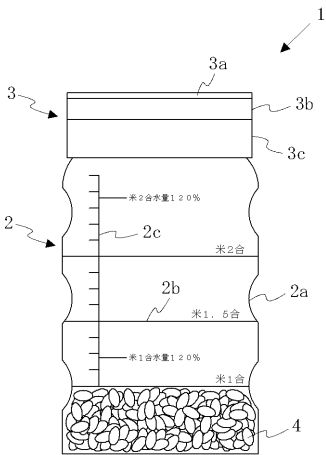
【図 8】



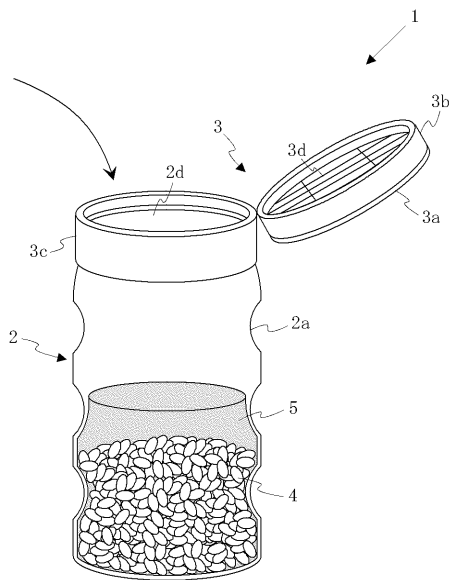
【図 9】



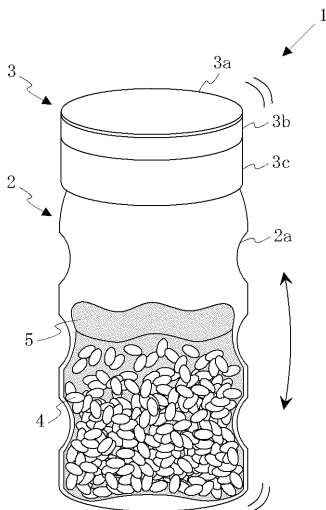
【図 10】



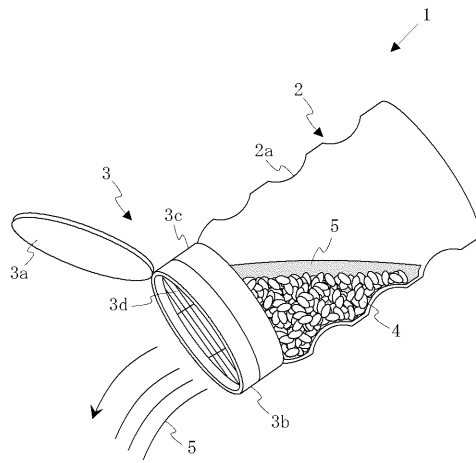
【図 11】



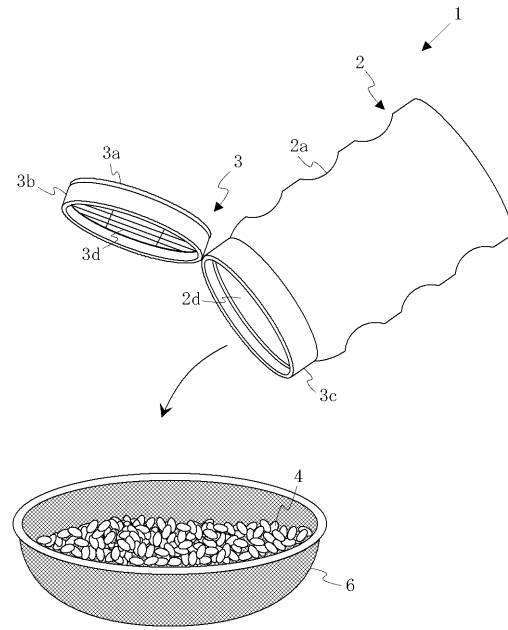
【図 12】



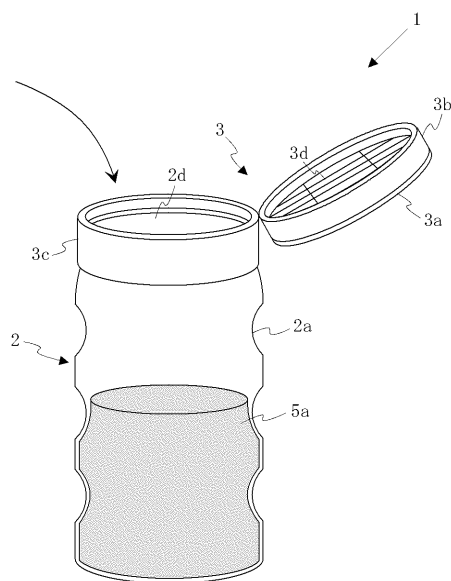
【図 1 3】



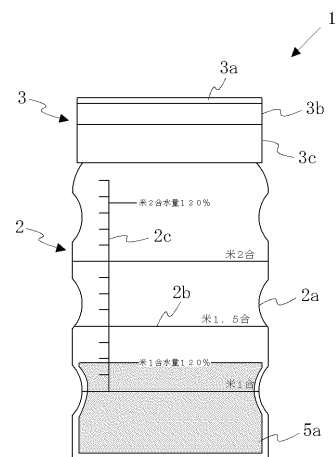
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



The diagram illustrates a container assembly 1. It features a main container 2 with a lid 3. The lid 3 is composed of a top flange 3a and a bottom flange 3b, with a central opening 3c and a gasket 3d. A separate lid 6 is shown pouring particles 4 into a cylindrical container 7. The main container 2 also has a gasket 5a and a flange 5c.